

## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-01 -1	お宝名称	絞モニュメント「 <sup>あいる</sup> 藍流」 ～絞りガラス～
------	------------	------	--

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

有松の町の玄関口である有松駅前の広場に街角の施設及び設備の思わぬところに有松らしさを代表する「絞り」と「町並み」の風景がデザイン(意匠)として施され、南の東海道町並みと双壁となる大きなランドマークになる存在となっております。これらを“街角ウォッチング”することで有松桶狭間観光の「ミニツアーコース」に値しております。

このモニュメントは、西側の地上高13m、9段に積み上げられたサイコロ状のガラス塔と東側に置かれた同じく6面体のアルミ鋳物等で平成18年3月に完成しました。このうち、ガラス塔は1面縦110cm×横106cmからなる4面の「絞りガラス」が特徴で、ガラスはエッチングで絞り意匠を施し、色は藍と白のグラデーションで表現されています。



夜間ともなると昼間とは趣を異にし、内蔵したLED光源が道行く人の脚をとどまらせる夜景を演出します。

これは、1992年の第一回国際絞り会議で、絞りの美の本質はその立体的造形からくる雑な光の波動との理論を受けて制作されたものです。

また、名称の「藍流(あいる)」は、市民公募から選ばれたもので、高さ13m幅3mに絞り染めの藍が流れる風景と絞りの歴史の未来への発展を象徴しています。

## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-01 -2	お宝名称	絞モニュメント「 <sup>あいる</sup> 藍流」 ～絞リアルミ鋳物～
------	------------	------	--

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

有松駅前「絞りモニュメント『藍流』でガラス塔と雌雄1対の1角をなすアルミ絞りのオブジェです。ガラスの絞りの美しさをイメージとして超えたのに対し、アルミの絞りは布の持つ質感と本来“柔らかい”はずの布が絞られることによって生み出される“力強さ”を絞りそのものとして表現しています。

ここで用いられた絞り技法は「嵐絞り」で、絞りの“やわらかさ”を豊かに感じさせます。素材は金属のアルミニウム、製法は鋳物、色はアルミ生地 of 生成りです。

布以外の異素材の「絞り」が出現することは絞り400年の歴史で開闢<sup>かいびやく</sup>以来の革新的存在です。一方、これを素材とする新商品は絞り産業にとって従来の「衣」の分野から「住」の分野へ本格的に領域を拡大する新素材として、絞り産業に“新時代”の到来を予兆させる存在といえます。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-02	お宝名称	照明柱—“ <sup>うだつ</sup> 卯建”と“絞り”
所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200		

有松駅前広場一帯には、有松らしさを引用し、有松町並みの特徴の一つである“卯建”をモチーフにしたデザインコンセプトで照明柱が街路灯として設置されています。

これらの1灯1灯には、「三浦絞り」「横引き鹿の子絞り」「蛇の目巻上げ絞り」「横ちり嵐絞り」などの有松固有の絞り技法であみだされた絞りデザインがエッチングガラスとしてはめ込まれています。

色調が環境に配慮され淡い浅葱<sup>ねぎ</sup>色と目立たないが、新しい商業ゾーンの街角の街路照明柱にここまでこだわったデザインが施されていることが驚きと感動を与えてくれます。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-03 -1	お宝名称	歩道の景色-舗装パターン
------	------------	------	--------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

有松駅前商業地群を取り囲む道路—有松線・大将ヶ根線・東丘線、この歩道にはいくつかの幾何学的模様がカラフルに埋め込まれています。

そこにはゾーンごとに絞りの伝統的な技法、例えば「鹿の子絞り」、「段替わり鎧段絞り」、「蜘蛛絞り」などがデザイン化され、採用されています。

道ゆく人はこれが“絞り”と気付くことは少ないのではないのでしょうか。

それだけに、このさりげない歩道のデザインに込められた、有松まちづくりの基本姿勢—“有松らしさ”を理解すると同時に、まち内外の人々にアピールしていくことが望まれています。

その意味では、「絞りのみち」の“シボリ・ロード”と愛称されていって欲しいものです。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-03 -2	お宝名称	歩道の景色 ボラード
------	------------	------	------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

有松駅前広場の周辺車道の道端に、柵を支える目立たぬ灰色の縄模様のコンクリート柱(ボラード)が張廻られています。

このボラードは、有松絞りの原型「縫う」「しばる」「たたむ」の“しばる”を表わしたもので、布をつまんで糸で縛る「巻上げ絞りの姿」として絞りのプロセスを表現したものです。

何気ないボラードではありますが、“路傍の石”に「有松のこころ」を物語ることは、住む人たちにも訪れる人たちにも一層の愛着を感じてもらえる好材料の町のお宝です。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-03 -3	お宝名称	歩道の景色 昔物語 17話
------	------------	------	---------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

①浦島太郎 ②花咲か爺さん ③かさ地蔵 ④さるかに合戦 ⑤おむすびころりん ⑥十二支⑦うさぎとかめ ⑧金太郎 ⑨ねずみの嫁入り ⑩でいたらぼっち ⑪かちかち山 ⑫因幡の白うさぎ ⑬こぶとりじいさん ⑭桃太郎⑮一寸法師 ⑯竹取物語 ⑰鶴の恩返し と日本昔物語 17話が収まっている「ストリートギャラリー」として表現しています。

有松線、大将ヶ根線の歩道側のポラード上にアルミ鋳物パネルに1話2枚構成の絵物語が17話続いています。17話が繰り返してパネルの数は全部で6

8枚で構成されており、1枚の絵の中に「三浦紋り」「鹿の子紋り」「杳目紋り」などの紋り模様が施されています。

物語は気がつくと、幼児の目線に配慮されており、この「ストリートギャラリー」が皆さんに喜ばれあちこちで親子がほほえましく、かつ楽しそうに語り合う“家族の姿”をたくさん見たいものです。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-04	お宝名称	公衆トイレ正面入り口 ステンレスとタイル
所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200		

### (1) 入り口正面

サイン計画を示す縦長のステンレス部分に地紋として蜘蛛紋り等がエッチング(ブラスト)により表現されています。

### (2) 外壁のタイル模様

町並みの「親子格子」をボーダータイル仕上げで表現しています。

利用度の少ない公衆トイレにもきめ細かく「絞り」と「町並み」がデザインされていることは、当地の“有松らしさ”に懸けるまちづくりの姿勢を感じさせると同時にこの地域を「絞り意匠？」という視点でミニ周遊するとき、一つのスポットとして欠かせない存在ではないでしょうか。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-05 -1	お宝名称	有松駅前自由通路 ペDESTリアンデッキの絞りガラス
------	------------	------	-------------------------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

改札口南側の自由通路北側のペDESTリアンデッキの高欄には、自由通路側に「ダイキャスト絞りガラス」、ペDESTリアンデッキ側に「エッチング絞りガラス」が設置されています。

磨きによるエッチング絞りガラスは、伝統産業「絞り」の新展開、新方向の象徴であります。また、エッチングガラスと絞り技法の表現を多彩に創り出した新感覚として表現し、全部で85枚あり、1枚1枚に「鹿の子絞り」「日の出絞り」「杳目絞り」「唐松絞り」「巻上げ絞り」「菊花絞り」「蜘蛛絞り」「三浦絞り」「帽子絞り」「柳絞り」「村雲絞り」など85種類の技法のデザインが彫りこまれています。

有松絞りの400年にわたる歴史と伝統の中で永々と開発を続け、これら多くの独自、改良技術を創出してきました。これら一連の図案は、単に絵模様として提案するのではなく、「巧み」と「技術革新」の視点から多くの人々に紹介し、知ってもらうことを狙ったものです。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-05 -2	お宝名称	自由通路 ペディストリアンデッキの高欄
------	------------	------	------------------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

自由通路（ペディストリアンデッキ）の両側の高欄の手摺り

（1）色調は絞りの藍染をイメージする藍色

（2）形は、町並みの卯建をイメージしたかまぼこ型

自由通路は、名鉄有松駅を利用する住民にとってなじみの場所、外来者にも駅を出て最初に出会う場面であります。

南側通路の高台より東南方向に開ける瓦葺<sup>かわらぶき</sup>の家並みを一望するとき、手を添えた手摺りにまさに絞りと町並みを発見します。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-05 -3	お宝名称	自由通路(ペデストリアンデッキ) ダイキャストイング絞りガラス
所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200		

有松駅改札口を出て、有松町並みに向うアプローチの自由通路両側の高欄に“窓”から“現代の襖”のように幾枚かの長尺な薄緑色のガラスが自然光を浴びてキラキラと光っています。

ダイキャストイングによる絞りガラスの表面の凹凸の起伏により、光の乱反射が生じ、その表情は季節によって一日の時間のなかで変化します。平板な板ガラスでは見られない絞りの造形による独特な風景です。

「嵐絞り」「蜘蛛絞り」「三浦絞り」により施された63枚のガラスは一枚一枚が全体に川の流れを表現しています。

絞り400年をはぐくんできた有松が、時代の変化のなかで起伏を越えて歩んできた、大きな時間の流れ、そして、いま現代に生きる人々の喜怒哀楽の織りなす人生そのものを表現しています。

絞りが布から異素材へ転換し、従来の「着る」分野から「住」として、建築の分野へ本格的に進出する第1弾として極めて重要な時代の変化を象徴しています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-06	お宝名称	地下連絡通路 ガラスモザイク壁画
------	------	------	---------------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

有松駅前商業棟北口から東丘線への地下連絡通路の両側の壁面に約4mの間隔で25枚のモザイク調壁画があります。

420×570の一枚に使われたピース300～500個の素材は、ガラスで表現しました。

説明がないのでわかりにくいのですが、これら25枚は、「巻上げ絞り」「折り縫い絞り」「人目鹿の子絞り」「横ちり嵐絞り」「蛇の目手蜘蛛絞り」「十字桜嵐絞り」「斜改良嵐絞り」「ちり嵐絞り」「縦横空目嵐絞り」「手蜘蛛絞り」「横引き鹿の子絞り」「緑絞り」「手筋金通し絞り」「やたら三浦絞り」でデザインされています。

このような些細な箇所まで有松絞りをイメージした表現を施したことで、絞りの街を象徴しています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-07	お宝名称	駅前広場エレベーター 外壁アルミ鋳物絞りパネル
------	------	------	----------------------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

駅前広場にあるエレベーター塔基部の四方を重厚なブロンズ調の緑青アルミ鋳物パネルで覆っています。

有松の絞り作家早川嘉英氏がデザインしました。

このパネルから「これが現代の有松の絞りです」と発信されるメッセージは、ガラスの絞りと同様に有松鳴海絞の新しい創造的展開の始まりで、絞り産地としての将来への貴重な財産であり、有松桶狭間の地に限りない感動と可能性を呼び起こすに違いないと考えられます。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-08	お宝名称	案内板 絞りステンレスエッチング
------	------	------	---------------------

所在地	有松駅前広場 名古屋市緑区鳴海町字有松裏200
-----	-------------------------

有松駅前に設置されている案内板のデザインは、ステンレス版をエッチングする技法で「唐松絞り」「蜘蛛絞り」などが描かれています。

有松駅を中心に絞りと町並みを視点とする“有松らしさ”の表現を14項目に涉って「絞り意匠」シリーズとして伝えています。これらは単独というよりシリーズとして多くの人に見て頂きたいものです。

例えば、「街角ウォッチング」あるいは「新発見！有松駅前ミニツアー」などとして、今後活かされると素晴らしいですね。

これらの資料提供は名古屋市住宅都市局有松都市整備事務所「有松地区再開発事業に係る修景計画概要版」により構成されております。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-09	お宝名称	竹田庄九郎碑
所在地	名古屋市緑区有松 3008 番地		

有松鳴海絞会館奥の竹林の中に 有松絞り開祖竹田庄九郎碑 2 基と、中興の祖鈴木金蔵 1 基が建碑されています。

鈴木金蔵碑は、1897 年（明治 30）祇園寺境内に建立された後、1933 年（昭和 8）に建碑された竹田庄九郎碑の横に移設され、両氏の石碑の前で毎年慰霊祭が行われ、先人の偉業を尊んでいます。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-10	お宝名称	(株) 竹田嘉兵衛商店
所在地	名古屋市緑区有松 1802 番地		

開祖竹田庄九郎家より「西竹」が分家、「西竹」より「笹屋」が分家、笹屋から「笹加」が分家し、竹田嘉兵衛商店となる。

1730年代に笹加を創設し、1872年笹加竹田商店として設立、江戸時代より続く絞商であり現在業界のリーダー的役割も大きく、江戸、明治、大正の各時代の本店建築は正に老舗絞商として貴重な建物として多くのマスコミに取り上げられています。

明治以降木綿が主流であったが、現在は絹の高級着物類を主流として、絞りゆかたから洋服まで様々な絞り製品を業界のトップメーカーとして製造販売しております。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-11	お宝名称	有松・鳴海絞会館
所在地	名古屋市緑区有松3008番地		

有松東海道沿いの町並みには、今も江戸情緒を残す絞商の家並みが連なっていますが、ほぼ町並みの半ば辺りに1984年3月竣工されました。有松絞商工協同組合にて管理され、貴重な絞りの資料展示や有松絞りの伝統の歴史・文化をビデオで紹介し、常時絞り技術者による絞り実演も行っています。

また毎年6月第1土曜日・日曜日に開催される「絞りまつり」では、中心会場として多くの来場者で賑わいます。有松のランドマークとして重要な役割を果たしています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-12	お宝名称	株式会社 近喜（コンキ）
所在地	名古屋市緑区鳴海町境松 2-1		

伝統工芸有松絞りの製造問屋であり、主に絞り浴衣地を生産し全国へ販売、現時点で絞り浴衣地のトップメーカーです。

昭和5年頃の建造物で絞り浴衣の生産現場そのものを見ることができます。社内には絞り製品や加工途中のものなどがたくさんあり、染職人や内職の人などが多勢出入りしています。絞り浴衣の出荷最盛期には、染め上がりの製品の糸抜きや検品などを行っており、浴衣を巻いてダンボールに詰めて全国に出荷しています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-13	お宝名称	株式会社 張正
所在地	名古屋市緑区鳴海町米塚40番地		

創業者の鵜飼正一郎氏は、明治10年の創業時の更紗や小紋の染色から、多様な絞りの染色技法の一つ 夾纈という有松古来の影絞-かげしぼり-に加え、板締め絞り中心となる雪花絞りや菊花絞りなどを開発されました。その技法を2代目鵜飼庄三郎氏、3代目鵜飼良彦氏へと伝承しこの技法による量産で、昭和20年代には海外にも輸出するなど大変有松絞りの名を広く知らしめました。

大正から昭和にかけ雪花絞りの浴衣や戦後のおしめによる量産により盛業をなし、昭和30年には幻の「豆絞り」の復刻を行い、ミシン折り縫い絞りの技法も開発し、現在の絞り産業にとって代表的な絞りの一つに位置づけられています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-14	お宝名称	早恒染色株式会社
所在地	名古屋市緑区有松 1034 番地		

戦前戦後の絞り産業の好・不景気の波の中で、絞り染色業として隆盛をなした早川染色で開発された染色技術を活かし、先代社長の早川恒太郎氏が昭和40年代初期に現住所で早恒染色株式会社を興し、現社長の三浦氏にその技術を伝授し、現在は綿絞り染色を中心に業界の多くの仕事をこなしています。

業界の隆盛期には、浴衣を1日700反以上染色できる量的にも技術的にも優れた染工場でした。現在は、ゆかたの他にも綿製品のあらゆる商品の染色や新しい技術にも取り組まれており、絞り染色分野での中心的企業であります。

また、有松鳴海絞りの伝統工芸士会会長として、技術の伝承・保存など業界全体の今後の方向についても前向きに取り組んでおられます。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-15	お宝名称	有限会社 絞染色久野染工場
所在地	名古屋市緑区鳴海町字境松 1-609		

絞り産業における必要不可欠な工程の染色部門において現代版に相応しいロケーションと機能を持ち合わせている大変特長のある染工場です。

展示の出来るショールームと400本の杭木で埋めつくされたモダンな空間で、国際絞り会議をきっかけとして始まった絞りの手仕事というローテクに科学技術というハイテクを合わせて新しい絞りを開発し現代に生きる絞りを創作しています。

それらの絞り技術を含めて、一般開放となる有松絞教室を開催しております。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-16	お宝名称	張文
所在地	名古屋市緑区有松 3614 番地		

昭和5年ごろ創業し、屋号の「張文」の由来は、創業者である「加藤文吾」から取ったものであり、初代は、絞りだけではなく「洗張り」も行っていた為この屋号になりました。現在の加藤和子氏は3代目であります。

最終的に絞りの着物や浴衣を仕立てるときに、機械湯のしでは絞りの特性であるシワ感が消滅してしまいます。これを保持するには、手湯のしを行うことが不可欠です。そのため大量でかつ迅速に仕上げるのが困難ですが、手湯のしによる1反1反丁寧な仕上げを行うことで、絞り本来の美しさをお客様に提供しています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-17	お宝名称	(有)シボリドットコム有松
所在地	名古屋市緑区有松 3023 番地		

400年の歴史を伝統産業「絞り」が、いま全く新しい方向を目指しています。“絞り”そのものを「かたち」にする、ガラス・アルミの「異素材シボリ」を製造販売しています。

絞り作家早川嘉英氏が考案した技術・ノウハウをもとに、従来の絞りとは異質の商品を主力に、**建築・住宅分野**での営業活動を行ない、名古屋市の飲食店舗、高層マンションなどの壁面装飾、屋外モニュメントに実績を持っています。

産業観光“絞のみち”のなかでは「伝統」が続ける「革新」への挑戦、また伝統産業の新方向として紹介したい存在であります。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-18	お宝名称	蔵工房
所在地	名古屋市緑区有松2316番地		

この蔵工房は、手越川沿いの町並みの一角服部良也邸の最奥の土蔵にあり、ここから井桁屋、服部邸、新家、中浜邸へと続いております。

蔵工房の早川嘉英氏は、東海道沿い「早恒染色」の長男として生を受けるが、家業を避けアートの世界に飛び込み、絞り作家として活動を行うとともに感性の高い絞り商品として絞り産業での仕事も行っています。

布から異素材ーガラス、アルミなどを絞ることを経て、現在は原点に回帰し、藍を建て、藍で染める、工房一貫体制を重視した活動を行っています。

「いま、有松に求められるのは、個性豊かな工房一貫生産体制の確立」を持論に創作に励んでおられます。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-19	お宝名称	あいぞめかわ てごしかわ 藍染川(手越川)
所在地	名古屋市緑区鳴海町、有松町		

有松の東海道に沿って流れている川を「藍染川」と呼び、各藍染屋が川を堰き止めて、その水で有松絞りの藍染めの水洗を行っていました。

この川は正式には「手越川」と言い、藍染めした絞りの藍を流し落とし、川が藍色に染まっていたことから「藍染川」と呼ばれ、ここに架かっている橋は、東から「松野根橋」「太子橋」「有染橋」「鎌研橋」などがあります。

現在では、上下水道の設備が整い染工場の染め排水を川に流さなくなり、昔のような藍色の水が流れる情景は無くなりました。



<鎌研橋> 東海道西側



<松野根橋> 東海道東側

## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-20	お宝名称	たけだしょうくろう 竹田庄九郎
所在地			
<p>1608年、知多阿久比之庄より移住、桶狭間の新町として「有松村」を開拓し、絞りの開発を行い、有松絞の開祖として400年の絞り産地の歴史の元を築き上げた人物です。当時治安も悪く、農耕に適さない開拓地で、絞り業を白紙からスタートさせ、東海道随一の名産絞りを産業までに築き上げた業績は、歴史上の人物の一人として大きく評価をされています。</p> <p>竹田庄九郎が、当時名古屋城築城のために全国から集まってきた人々のうち、九州からの武士や職人の着ていた衣裳のデザインから「蜘蛛絞り」を有松村で開発し、絞り手ぬぐいとして東海道の名産品として作り上げました。</p> <p>その後、有松は尾張徳川家の保護の下で今日まで400年間、100種類を超える新しい絞り技法の開発を続け、今では世界一の絞り技法の多い産地として知られています。</p> <p>これらの絞りが現在では海外の絞りアーティストたちまで波及し、竹田庄九郎の名が有松絞りの名声とともに広く知られています。</p>			

## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-21	お宝名称	松文
所在地	名古屋市緑区有松 1702 番地		

開祖竹田庄九郎が考案したシコロ絞りは、1620年代より現在まで続く伝統的な技法の一つです。

松文は、生地を両手で縦縞にしわを寄せ、その上から細かく糸で巻きつけて、ロープ状になる手筋絞りや縫い絞りを併用した竜巻絞りを中心に何世代も継承している絞り加工業者です。

松岡文太郎氏が創業者で松文筋などを考案し、その後妻たま氏は愛知県無形文化財に指定されました。

有松絞りの多くの技法の中で独特な筋状の絞りを施す加工として、絞り業者の多くから加工依頼を受け、現在では、松岡勝幸氏と松岡清子夫妻とともに伝統工芸士として技術を継承しています。



## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-22	お宝名称	絞り技法 蜘蛛絞り
所在地			
<p>有松絞りの1610年(慶長15年)に創始の絞りとして手蜘蛛絞りを手拭いとして商品化したのが始まりです。その後、先人のたゆまぬ知恵と努力により、明治42年には福岡兼吉が「速成蜘蛛絞製出器」を開発し、昭和時代に中谷氏による機械蜘蛛絞りとして電動力を使用した道具の開発により量産化できるようになり、蜘蛛絞りの製品の浴衣などを多く供給しました。</p> <p>有松絞りの蜘蛛の巣模様の最も絞りのイメージを表現した絞り技法の原点といえる手蜘蛛絞りのほかに手廻し蜘蛛絞り、機械蜘蛛絞りがあり、最も汎用的には機械蜘蛛絞りが多く使用され、他の技法はすでに後継者が少なく希少なものとなっています。</p> <p>手蜘蛛絞りは、現在本間とめ子氏が産地有松で唯一の技術を継承しており、後継者の育成について、指導を行っています。</p>			
			

## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-23	お宝名称	絞り技法 三浦絞り
所在地			
<p>三浦玄忠の妻により有松に1651年頃に伝えられた技法で大豆を使用したところから大分県・豊後では「豆絞り」と呼ばれていました。有松鳴海においても大正時代まで小豆の使用が僅か残されていました。江戸期の浮世絵の中の絞り意匠に最も多く見られるのは三浦絞りです。こうしたことから三浦絞りは、江戸時代に最も流行<sup>はや</sup>った技法で、今日においても有松鳴海絞りの最も代表的な人気のある絞り技法です。</p> <p>1500年代に九州で発祥し有松に伝えられた絞りで三浦絞りのほかに豊後絞りとも呼ばれ、ヒヨコ絞り、ムキミ絞りも異名同品です。これらの奇特の手わざこそ、絞りの沿革史に特筆大書しても過言ではないでしょう。</p> <p>三浦絞りは総称として、疋田三浦絞りをはじめ、やたら三浦絞り、石垣三浦絞り、平三浦（横三浦）・筋三浦絞りなどの技法があり、これらを継承している技術者は、いずれも高齢化して、後継者がほとんどいない状況です。</p>			
			

## 有松・桶狭間お宝カルテ

絞のみち	S-24	お宝名称	絞り技法 嵐絞り
所在地			
<p>江戸期の技法を1879年(明治12年)に有松絞の中興の祖鈴木金蔵氏により考案されました。キセルの羅苧(ラオ)に紙を当てて糸を巻き、煙のもれを塞いだところ、煙がもれ紙の小皺に模様が付着しているところからヒントを得、技法を開発しました。</p> <p>新嵐絞りとして明治以降、男物絞り浴衣として大量に生産され、明治後期には嵐絞り職人が、毎日寿司が食べられたという逸話が残されているほど繁盛しました。</p> <p>絞り技法の中で4m近い丸太棒を使用し一番大掛かりな絞り技法としてされています。</p> <p>現在では、有松では早川嘉英氏が絞り作家として技術継承と創作活動をしています。海外では欧米を中心に絞りアーティストたちの約9割がこの絞り技法を使用しており彼地で最も普及している絞りです。</p>			
			